

栄光

『天上のこと』

説 教

民数記 21 章 4 節～9 節

ヨハネによる福音書 3 章 11 節～15 節

松谷祐二

説教・ 「天上のこと」 松谷祐二牧師…1
特集・続いていること、続けるコツ…2
説教・ 「ベトロの苦悶と主イエスの祈り」 梅津重信神学生 ……………4
ミニバザー報告…5
長老のファイル…5
牧師の寄り道……6

夜、訪ねて来たニコデモに、イエス様は言われました。「よくよく

言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」(3・3)。しかし、ニコデモも、他の人々も、なかなか「新たに生まれる」ということの必要性も、可能性も、信じられませんでした。

イエス様は嘆かれます。「よくよく言っておく。私たちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたは私たちの証しを受け入れない。私が地上のことを話しても信じない」とすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう」(3・11、12)。

現にこの地上で「新たに生まれた」者たち——弟子たち、私た

ちクリスチャンのことです——

がおり、私と共に証しをしているのに。神の国に入る道、まことの光について証言しているのに。なぜ信じてくれないのか：残念だ。

イエス様としては、地上でなされている証しを入り口として、さらに「天上のこと」をも信じてほしいのです。神様はどういうお方か。神様はどういうお考えで、何をしようとしていらっしゃるかを。

それは、神様を直接見たお方が天から降って来て教えてくださった、天上と地上を、神様と私たち人間を結んでくださったって初めて、分かること、信じられることです。

イエス様は「天上のこと」、神様の本当のことをお示しになりました。「そして、モーセが荒れ野で

蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない」(3・14)。

「人の子」とはイエス様ご自身のことです。「私も上げられねばならない」——天に、上げられねばならない。天から降って来た方ですから、再び天に上るのは自然です。しかし、好きな時、好きなように、自分で天に「上る」のではなく、神様によって「上げられねばならない」と言われました。

「上げられる」仕方も、神様によって定められています。「モーセが荒れ野で蛇を上げたように」です。イスラエルの民が荒れ野で神に背いて罪を犯したとき、悪い者を象徴する蛇が罰として送られ、多くの者が死にました。民が悔い改めて赦しを求めると、神はモーセに命じて青銅の蛇の像を竿に掛けさせ、それを仰ぎ見た者は生き延びた、つまり赦された、と言います。竿に掛けられた蛇は、悪い者が神に抑え込まれ、打ち砕かれ、無力にされた姿をしていました。そのおかげで民は助かりました。

私は、偉大な指導者モーセのようにはなく、むしろ竿の先に掛けられた蛇のように上げられな

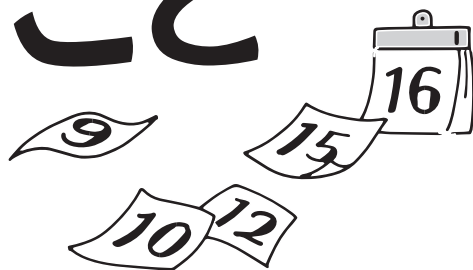
ければならない。十字架の上に上げられ、ついに天に上げられなければならない。それが、神のお考え、神の定めだ、とイエス様は言われたのです。「それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」(3・15)。

地上での私たちクリスチャンの存在、教会の存在は、まだ信じられない人々にとって、神が新たに生まれさせてくださる、という事実の生きた証しです。ただし、クリスチャンが、教会が、目指すところは、私たち自身ではなく、イエス・キリストを指し示すことです。それがなし得る最善のことです。天から降って来られたイエス様だけが、「天上のこと」、神様の本当のことを示してくださるからです。

イエス様がモーセのようにではなく、蛇のように「上げられる」ことを、神様がお定めになりました。いったい神様は何を考え、何をなさうとしておられるか。

私たちが、神の子イエス・キリストを仰ぎ、信じて、永遠の命を得られるように。神様という方は、そのことばかりを、本気で、願っておいでなのです。(10月19日)

続けていること 続けるコツ



誰しも日々の暮らしの中で、ストレッチや散歩など
ずっと続けていることがあります。

あなたが続けていることは何でしょうか？

続けていくコツはありますか？



爺さんは命の限り歌う

重藤直樹

執筆中の現在、大きな合唱の舞台に向けて、猛ラストスパートしております。来週10月末に本番です。『グノーのレクイエム』を歌います。会場は池袋の東京芸術劇場大ホール。ご存知、日本最高峰の音楽ホールです。心身が引き締まります。この『栄光』が発行される頃には、無事日常に戻っているのでしょうか。

12月には、すっかり年末のなくてはならないライフワークとなった『メサイア』を、年明け3月には『マタイ受難曲』を歌います。挑戦が続きます。結局常に舞台稽古の毎日です。気づけば同時に4つの合唱団に所属しているのです。無理ありません。

馬車馬のごとく働いてきた私は、リタイア後、これまた馬車馬のごとくに合唱に取り組んでいます。結局、突っ走ることにしかできない忙しない男です。

昨年の夏には、頭を強打して脳出血を起こしました。手術と入院を経て、退院後10日で合唱の舞台に立ちました。家族は呆れ果て、「生前葬だと思って聴きに行こう」と言い合いながら客席で見守ってくれました。

まだどうしても歌いたい宗教音楽が残っています。生きているうちに絶対歌いたいです。後期高齢者の私に、時間はどのくらい残されているのでしょうか。わが主、わが神しかご存知ないことです。

小学生の頃からクラシック音楽に大きな憧憬を抱いてきました。戦後引き上げを経験した我が家は本当に貧しかった。オーケストラの舞台に足を運ぶため、レコードを買うため、必死でアルバイトをする少年時代。いつも目の前には、宇宙のように広がる音楽の世界がありました。だから貧しくても幸せいっぱいでした。

演奏者側に立てるとは、『あちら』側に立てるとは。少年時代の自分に伝えてあげたいです。今もとても幸せだと。

神様のご用意なされた好き

高木悦子

幼い頃は虚弱で、家の中で歌、ピアノ、読書が好きで、病のため床でラジオを聴いていることが多く、見守ってくれる親に言われるがままの生活でした。

高校から女子校で、何でも自分たちで挑戦し続ける逞しさを身につけ、朝な夕なに練習をするテニス部で体力に自信がつくと、大学以降は自分が望めば努力次第で出来るという経験をしました。末っ子特有の負けず嫌いの強さ、小児喘息のお蔭で我慢強い性格もついたと思っています。

私は、この15年、夫が早朝出勤のため毎朝5時前に起床、一緒に朝食をとり見送った後、40分間のウォーキングとストレッチをおこない、朝風呂に入り、8時頃から忙しい1日が始まります。

私が書家として書く破体書は大きなものは畳一畳大から半紙大まで、二種以上の漢字体を混せて、

心に響く言葉を、一種から三種の墨色で絵のように立体的に表現します。30年以上続けていますが「これでいい!」ということはありません。

書展は3か月毎にあるので次に書く言葉と線の構想はいつも頭をめぐっています。

出会う本、新聞の『天声人語』や『栄光』の先生の言葉や聖書の言葉、報道などから言葉を選んでおり、心が素直に踊ります。

年毎に体力や記憶力に衰えがありますが、破体を書きたいという意欲があるお弟子さんも増えてきて、私にとっても良い刺激になっています。続けるコツはよい指導者に恵まれ、気の合う仲間と共に励むことでしょうか。

教会では聖歌隊の練習を続けているので、合唱も習いつつ神様を賛美する心が礼拝で歌う毎に神様が喜ばれるようにと全身全霊で捧げ、お説教に耳を傾ける至福の刻が与えられています。礼拝も欠かさず出られるようになり、教会の看板を書く奉仕に与り、感謝しております。

続けていること

石橋祐子

長く厳しかった夏がようやく過ぎ、少しずつ秋らしくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか? 私は去年の4月に滋賀から姫路に転居しました。子どものはころは親の転勤、今は主人の転勤に帯同して、住まいも一つ所で落ち着くということがあまりなく、運動や勉強も三日坊主になりがちな私にとつて、今回の「続けていること、続けるコツ」というお題はむしろ続けている人からコツを教えてください!と思うようなお題でした。それでも自分のこれまでを振り返って、二つ続けていることを見つけました。

一つは絵を見ること。もう一つはクリスマスに丸鶏を焼くことです。絵を見ることは多分中学生ごろからの趣味なので、かれこれ25年近く続いていて、つい最近も神戸で開催中の『大ゴッホ展 夜のカフェテラス』を見に行ってきました

した。絵画鑑賞を続けるコツは、好きな作品や好きな画家を見つけ、そこから同時代の画家や同じモチーフの作品、好きな作品が影響を受けた作品……と、どんどん自分の好きな絵を増やし、興味の幅を増やしていくことでしょうか。聖書が画題となっている作品も多いので、知っている箇所だとより楽しめますし、よく覚えていない場合は改めて聖書を読んでみる楽しみもあります。

もう一つの、クリスマスに丸鶏を焼くことですが、お店で食べると予算の関係上少ししか食べられない……自分で焼けば好きなだけ食べられる?と一人暮らしのころに思い立ち、そこから15年くらい毎年欠かさず焼いています。これだけでクリスマスのごちそう感が出るので、毎年おいしそうなレシピを探して試しています。続けるコツは食いしん坊になることと、家族が喜んでくれることです。

ちよつと面倒だなと思う年もありますが、家族が喜んでくれるので毎年頑張れます。そして、ここで発表したからには今年も頑張ります!

説 教

『ペトロの苦悶と主イエスの祈り』

イザヤ書49章14節～16節 a
ルカによる福音書22章31節～34節

東京神学大学院1年 梅津重信

今日の箇所は、イエス様が弟子たちと食事をされた最後の晩餐の出来事です。ここから、自分の弱さに苦しみ悶えるペトロがイエス様の祈りによって立ち直っていく姿を見ていきます。最後の晩餐とは、イエス様が十二弟子と持たれた最後の過越しの祭りの食事で、晩餐の意味はイエス様の十字架で屠られたイエス様の肉と血をパンとぶどう酒として頂く聖餐は、主の審判の日に打ち滅ぼされることなく神の国に凱旋する保証です。イエス様はペトロに「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願い出た」と語られました。サタン、すなわち悪魔は人の弱点を見つけ出して破壊へと追いやります。その悪魔が弟子たちの信仰を失くそうとします。31節「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願い出た」は、

原文では「願い出て聞き届けられ」となっています。悪魔が弟子たちを試みに遭わせることを神様が許しになったと言うのです。ここで混同してはならないのは試験と試みの違いです。試験は神様が与えるもので、私たちは神様の試験を通して、信仰が練られて成長していきます。それに対して悪魔から来るものが試みで、私たちの信仰を駄目にして破壊に追い込みます。しかし、試験と試みが一つの出来事として同時に起きることがあるようです。神様は悪魔の試みを、神様の権威の下に置いて、神様の試験にすり替えてしまおう、つまり、どんなに悪魔が試みても、悪魔は神様の許しの範囲でしか活躍出来ないと言っているのです。

悪魔はペトロや弟子たちを、信仰を失うような大きな試みに遭わせました。しかし、ペトロは死を覚悟してまで、役人に捕らえられ

たイエス様を追い掛けて大祭司の官邸まで行きました。しかし、ペトロの弱点は人から疑いの目で見られることでした。官邸の中庭で、ペトロは使用人たちから「あの連中の仲間だ」と疑いの目で見られたのです。ペトロは心の底から恐怖を感じ、必死に自分の正体を隠そうとして、3度もイエス様を否定し、イエス様を裏切りました。鶏の声を聞いて我に返ったペトロは、自分の弱さ情けなさに激しく泣いたのです。

しかしイエス様は、人の弱さを知る方です。イエス様は最後の晩餐でペトロに「私はあなたのために、信仰が無くならないように祈った」と言われ、「立ち直る」と言われました。イエス様は、弱さのために失ってしまうペテロの信仰を先回りして、立ち直ると宣言されました。イエス様は父なる神様に祈って、悪魔の試みを神様の試験へとすり替えられました。イエス様は十字架に架けられました。御父によって3日目に死に勝利されて復活されたイエス様は、自分を裏切ったペトロに会いに行かれました。ペトロは、イエス様

に慰められ、心癒されました。そして、立ち直ったペトロは使徒として、多くの兄弟姉妹を力付ける働きをすることが出来ました。

ローマの信徒への手紙では「苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生むことを知っているからです。この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」と語られます。神様を信じる私たちの心の内に「聖霊」がおられ、私たちに神様の愛を注いでいます。だから、私たちは苦難に遭ったとしても、神様の愛によって希望を持つことが出来るのです。私たちの人生は苦難の連続です。私たちは、悩み、苦しみ、自分を責め、人を責めてしまっています。このような中で湧き起こる「心のつぶやき」は、イエス様を見失い、信仰を失うことになります。しかし、私たちが悲嘆に暮れている時ほど、イエス様は傍らで、私たちをしっかりと支えて、私たちの人生を共に歩んでくださいます。だから、私たちは主を見つめ、主に従って歩んでいきたいものです。

第1・2回 ミニバザー報告

「焼きそば出来上がりしましたー!」

教会学校に通う子どもたちの声が1階に響きました。ここ数年、CSが関わるバザーが開催されていなかったのですが、とても懐かしく、子どもたちがバザーで売り子をする光景が、経堂北バザーの風物詩であったことを思い出しました。

8月3日、第1回ミニバザーを開催いたしました。バザー委員以外の方のご協力もあり、3万4千円の売り上げとなりました。10月の第2回ミニバザーは、より多くの方々の協力もあり、人数こそあまり多くはありませんでしたが、予想を上回る売り上げとなりました。昨年は計3回のミニバザーで10万円を超える結果でしたが、今年は第2回目のバザーだけで13万円の利益を上げることが出来ました。河野姉をはじめとする教会ご婦人たちの手作りケーキは今年も好評でした。CSの子どもたちには、先生と一緒にピンチョスと焼きそばを売っていただき、焼きそばはなんと70食も売れました。大西長老が1人で3つも平ら

げていたので、来年はもう少し量を増やしてみようと思います。地下の献品ブースでは、当初品物があまり集まらないのではと懸念していましたが、想像以上に集まり、カナンの部屋だけでは少し手狭だったかもしれません。

「伝道」をテーマに、教会員のご家族が礼拝から出席してくれて、バザーも楽しんでいただく、というイメージを持っていましたが、当日は毎週と変わらないいつもの礼拝出席者数と顔ぶれでした。来年の課題としたいと思っています。しかし、バザーのようなイベント・行事があるとやはり教会がいつもより明るく感じます。昨今いろいろと配慮が求められることは重々承知しています。やらない理由、やれない理由を並べるのは簡単です。それでも、私たちは友と一緒にやり遂げることでできる勇氣と知恵を主に与えられています。おそらく来年は、もっと賑やかなバザーが行われるでしょう。バザーの楽しさと活気ある経堂北教会を、私たちが思い出してしまったからです。(諸橋慶広)

長老のファイル

金木犀の香りと共に急に寒くなり、秋が深まってきました。

10月12日の神学校日には、梅津重信神学生を迎えました。梅津さんは銀行を定年退職後に東神大に編入した方で、落ち着いた説教をされ、礼拝後は長老会にも陪席していただきました。

10月19日は2回目のミニバザーをコロナ禍以降初めて飲食を提供する形で実施しました。焼き菓子、フェアトレードコーヒー、焼きそば、ピンチョス。洋服、アクセサリー、聖書カバー等多岐にわたる販売しました。5年ぶりのため、手順や配置の仕方等忘れたこともあり当日バタバタしましたが、久しぶりに教会員同士がゆつくり話せる場となりました。11月2日に

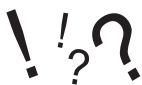
は第3回ミニバザーを実施しますので、対外援助のためご協力をお願いいたします。

11月2日の召天者記念礼拝のため、遺族の方へ190部葉書をお送りしました。毎年、総務委員会が召天者の写真を礼拝堂いっばいに掲額します。大勢の信仰の先達に見守られながら礼拝を守ると心安らかになりますが、掲額スペースは残りわずかとなり、今後は掲額方法の見直しをする必要があります。

懸案事項であった外階段上扉の修繕は、リフォーム会社の都合で遅れていましたが、下旬には工事に入る予定です。フロアタイルの貼り換えは1階も含めて見積もりを取って進めます。また、牧師室用と配信用のPCはアップグレードが出来ない機種のため、買い換えが必要となりました。何かと老朽化に伴う出費が続きますが、これも礼拝を守り続けるために必要ですのでやむを得ません。

幼児祝福式、創立88周年記念礼拝のあとは早くもアドベント。平和を願いつつ、一つひとつがみ旨にかなったものとなりますようお祈りします。(酒井由紀子)

個人消息



掲示板



○新約を学ぶ会 11 月 6 日(木) 午前 10 : 30
エフェソの信徒への手紙を学び始めます。

○合同礼拝・幼児祝福式
11 月 9 日(日) 午前 10 : 15

○ナオミ会 11 月 11 日(火) 午前 10 : 30
ルカによる福音書 9 : 51-62

○創立 88 周年記念礼拝
11 月 16 日(日) 午前 10 : 15

○ハッピーアワー 11 月 16 日(日) 礼拝後

編集後記



▽私が続けていることはジム通いとストレッチ。
あとは趣味の美術展巡り、演劇や文楽・歌舞伎・
落語観賞。これは学生時代からの趣味で、この
ために頑張っている(？)(酒井)

▽情けないことに、脳トレも体操も続きません。
何とか続いているのは焼き菓子作りと礼拝出
席。礼拝で毎週を始められる幸いに感謝です。
(原典)

「栄 光」2025 年 11 月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
電 話 : 03-3428-5029 / FAX : 03-3428-5038
牧 師 : 松谷祐二
編 集 : 栄光編集委員会
Email : church@kyodokita.com
HP : http://www.kyodokita.com
(11 月 9 日より)



牧師の寄り道

海外からのサイバー攻撃で、通
販サイトのアスクルが受注を停止
したのは少々驚いた。アサヒデ
ループHDへの攻撃では、個人的
には困りはしなかったが、アスク
ルでは教会の事務用品を買って
いる。例えばこの『栄光』の用紙。
紙の種類もさまざまある中で、『栄
光』にはこの用紙を、と岸先生か
ら引き継ぎを受けた。表面のなめ
らかさと、印刷したときに裏写り

しない程度の厚みが丁度良いもの
を求めて、試行錯誤の結果選ば
れた用紙である(たぶん)。教
会のストックが無くなるまでに、
アスクルは復旧できるだろうか。
世の中と同じく、教会の仕事も、
個人の生活も、ネットを経由し
たサービスへの依存度が高い。ホ
ームページ、礼拝のライブ配信。
メールやSNSでの諸連絡、ネッ
トでの口座の確認、振込。最近の
パソコンは、普通に文章を書いて
保存するだけでもクラウドストレ
ージ(ネット上に用意された保存

場所)を利用する前提になってい
る。AIの便利さに慣れてしまっ
たら、ますますネットが手放せない。
さすがに危ういのではないか、
と以前から思っているのだが、
我ながら依存度は高まる一方であ
る。ネットが止まると、どうして
いいか分からない人間。そもそも
無制限の電力供給がなければ何も
できない人間。聖書の中には決し
て登場しなかったタイプの人間
が、こうして増え続ける。いつか、
強制的にストップをかけられるし
かないのだろうか。ストップをか

けるのが、神のみ声を聞き、主イ
エスの教えに学んだ人類の自制心
であれば良いのだが、それはおよ
そなく無理で、気候変動、大災害、
はたまた戦争によるストップとい
う可能性のほうが高そうだ。ああ。
それでも。すべてが止まり、ネ
ットや電気はもちろん、会堂もオ
ルガンも無く、週報一枚刷れな
かったとしても。私たちなら、空の
下、皆で礼拝ができる。皆が神の
言葉と、讃美の歌と、祈りを覚え
ていれば。それがあれば、私たち
は生きられるだろう。(松谷祐二)